

「確かな技術力」こそが最大の武器 ネットセーブが提供する トータルサポートサービスの広がり



ケーブルテレビ事業者を中心とした情報通信産業のネットワーク設備の保守、加入者向けカスタマーサービスなどで高い実績と信頼を得ている(株)ネットセーブ(東京・港区、円谷重信社長)。保守全般における優れた業績を支える要因として「確かな技術力」があることを見逃してはならない。多くの経験に裏打ちされた「確かな技術力」は、4K・8Kなどの次世代サービスが本格化する現在、ネットセーブを新たなステージへと引き上げている。

(写真左から)
前田 渉氏 (株)ネットセーブ技術部技術グループマネージャー
坂爪一茂氏 営業統括部長
円谷重信氏 取締役社長 瀬戸三浩氏 技術部長

4K・8K受信相談に「最前線」で対応

ケーブルテレビ事業者などの保守全般を請け負ってきた関係から、業界内では「BtoB事業者」のイメージが強いネットセーブ。一方、今年12月に新4K8K衛星放送開始を控えた現在、増加しているのは「限りなくBtoCに近いBtoB」の依頼だという。

「マンションなど集合住宅の管理会社や管理組合などから、新4K8K衛星放送を受信するためにはどうしたらいいのか、という問い合わせをいただいています」(ネットセーブ技術



瀬戸三浩氏 (株)ネットセーブ 技術部長

部長・瀬戸三浩氏)。

「いったい、なにが起こっているのか。答えは割とシンプルで「ケーブルテレビ事業者などの保守業務を請け負ってきたため、管理会社や管理組合と直接やりとりしてきました。そうしたつながりから、我々に直接相談されてきているようです」(瀬戸氏)。

相談を受けたネットセーブは、まずは物件のテレビ設備状況を把握し、どの程度の改修が必要なのか、施工内容を先方に提示。求められているサービスの状況、つまり4Kならば4Kのサービス内容なども含めた提案で、実際に改修を行うかどうかの判断を仰ぐ。そこでGOサインが出れば、いよいよ新サービス導入に向けた棟内改修作業を実施する、という形だ。

「もともと障害復旧のための棟内設備改修などは我々が請け負ってきた業務で、問題があれば調査に赴き、原因と対策を含めた提案を行っていました。管理会社などから直接依

頼があるというのは従来と異なる部分ではありますが、あくまで従来の延長線上として当たっています」(同)。

エンドユーザーの障害復旧を目的として動いてきた事業が、新規サービス普及のための受信サポートとして機能しはじめるという珍しい事例だ。

もちろん、こうした対応をスムーズに行えるネットセーブの強みは「保守のノウハウ」だけではない。

「業務範囲としては、保守に加えて棟内・幹線設計、申請業務、電柱などをお借りするための民地承諾などにも取り組んできました」(瀬戸氏)。これら業務の蓄積が現在、4K・8Kなどの新規サービス受信相談にも活かされている、というわけだ。

「もともと、ケーブルテレビ事業者などからCAD設計業務を請け負っていた関係で、ノウハウとしては蓄積していました。」(同)。そこに調査や申請、承諾といったノウハウが重ね合わせられることで、より良いサービスを迅速な形で提供できるようになったという。

「美しい」HE関連工事の意義、優れた工具の開発も

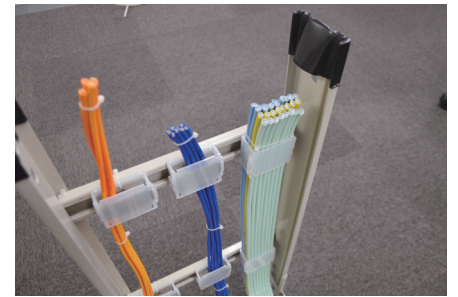
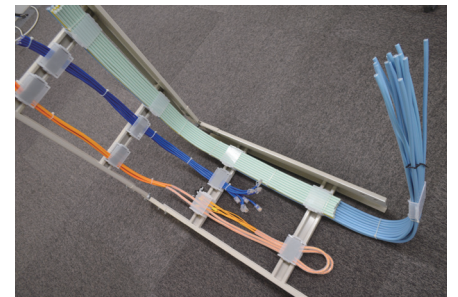
「確かな技術力」への評価、という点で忘れてはならないのが、ヘッドエンド関連の工事業務だ。これも大手ケーブルテレビ事業者からの委託を受けて行なってきたものだが「ノードの分割からHEの移設、大規模な配線の見直しまで担当しています」(同社技術部技術グループマネージャー・前田渉氏)。

HE関連工事で示されるネットセーブの「確かな技術力」は、見た目にもわかりやすいのが特長だ。とにかく、配線の仕上がりがみごと、の一言に尽きる。一度その仕上がりを見た関係者ならば、誰もが唖然であろうというレベルだ。

「きちんと整理して配線を行うことは後々、メンテナンスのしやすさにつながっていきます。保守業務を主としてきた我々としては、それを踏まえた上で『わかりやすくケーブルが整理された配線』を心掛けてきました」(前田氏)。

まさしく経験と熟練のなせる技だが、特にケーブルテレビ技術関係者からの評価は高いそうだ。「後の管理のしやすさ、という点で喜んでいただけることは多いですね。迅速な復旧作業につながることを考えれば、管理やサポートにかかるコストを軽減することにもつながりますから」(同)。

こうした現場における多くの経験を活かし、HE工事に特化したような工具の開発も独自に行なってきた。「HE Engineerシリーズ」では斜めに入れても回せるスパナや細長い特殊なスリットソケット、「Headend torque management toolシリーズ」では、トルクドライバー型の特長なスパナを用意。工具としてはかなり特殊な部類に入るが、現場を知る人間であればその利点が見える、優れたアイテムだ。



ネットセーブならではの「美しい」配線

「手が入らない位置のコネクタを回せる、というのは現場で自分が使う上でも重宝します。「ケーブル技術ショー」などで展示すると、手にとって関心を持たれる方は多いです」(同)。

地域BWA関連のサポート依頼にも迅速に対応

培ってきたノウハウと「確かな技術力」を武器に、業務範囲を着実に広げてきたネット



前田 渉氏
同社 技術部技術グループマネージャー

セーブ。直近では地域BWA関連の依頼も増えてきており、「調査から設計、申請、交渉と手がけてきた我々の経験が活かしています」(前田氏)という。

工事や設計、依頼からのレスポンスなどを迅速に行う点もまた、ネットセーブの大きな強みのひとつだ。

ケーブルテレビ事業の業務範囲が年々拡大してきた中で、それまでのノウハウを活かしつつ、新たな業務拡大を進めてきたネットセーブ。保守全般を出発点としたトータルサポートサービス展開は、来るケーブル新時代においても信頼される「確かな技術力」を武器に、今後の多くの活躍が期待されている。 B

ネットセーブが独自開発した優れた工具



特殊片ロススパナ使用例